

鷗川シード校の貫禄 結束強固



Bブロック同(浦河-鷗川)マウンド上に集まる鷗川ナイン同

主将(3年)西村天辰(同)、佐藤翼(同)両副主将が三本

柱になり、鬼海将一監督は「いい声が出ていたし、頼もしく見えた」とキャプテンシーを評価。2戦連続の零封勝ちは、試合を重ねて強固になった結束力が可能にさせた。

1年時から実戦経験豊富な最上級生がそろった浦河、2年生以下の若いチームだった静内の両日高勢も奮闘した。

Bブロックでは、昨年秋季支部代表の第1シード鷗川が順当に勝ち上がった。初陣の2回戦で室蘭工業に9-0の七

回コールド勝ち。浦河との代表決定戦では序盤先行から5-0で押し切った。特に浦河戦では、阿部柊希